

* 懐かしい写真 (三鷹に電波望遠鏡があった景色)

電波研究グループは「ノイズ」と呼ばれていた。このグループの中になぎやかな御仁がいたこともあって打ってつけのネーミングであったが、その由来は当然ながら宇宙（最初の頃は太陽のみが観測されていた）からやってくる通信の邪魔になる電波のノイズであった。中桐が三鷹に転勤でやってきた頃（昭和41年、1966年）は、現在の自動光電子午環がある辺りがノイズの領域で、大きな10mパラボラ太陽電波望遠鏡（写真1）が目立っていた。その南側にたくさんの浅い小さなおわんを並べた干渉計（写真2）などもあった。そしてその南西の天文台の境界近くには24m固定球面鏡（当時は競輪場と呼ばれていた）があり、焦点に置かれた受信機がワイヤーで引かれ日周運動を追っていた。ここで太陽電波グループは育ち、そして野辺山に移っていったのである。



写真1 10m 太陽電波赤道儀望遠鏡

古い資料を整理していて、懐かしい写真が多数出てきた。この10mパラボラは太陽電波の主力が野辺山に移ってまもなく倒壊の恐れがあるということで解体されたが、しばらくはコンクリートの架台が残されていた。この10mパラボラの北側にちょっとした池があって、そのほとりに「ノイズの桜」と呼ばれた枝垂桜があり、現在中庭に移植されて、毎年定年退職者の記念撮影場となっていた。その池の北側に木造平屋の研究室兼事件作業場が

あった。



写真2 たくさんのいろいろなタイプの太陽電波望遠鏡が見える。



写真3 左に26インチ望遠鏡ドーム、10m電波望遠鏡、右に24m球面電波望遠鏡

この頃は、三鷹で光学観測が行われており、木々は高くならないように切り払われていて、26インチドームが遠くからドームらしく見えるし、24m固定式球面電波望遠鏡の焦点フレームの間には太陽塔望遠鏡のドームが見える。

24m固定球面電波望遠鏡が競輪場と呼ばれた一端をうかがわせる写真4がある。焦点の受

信機を吊ったフレームに上って撮影したものであろう。

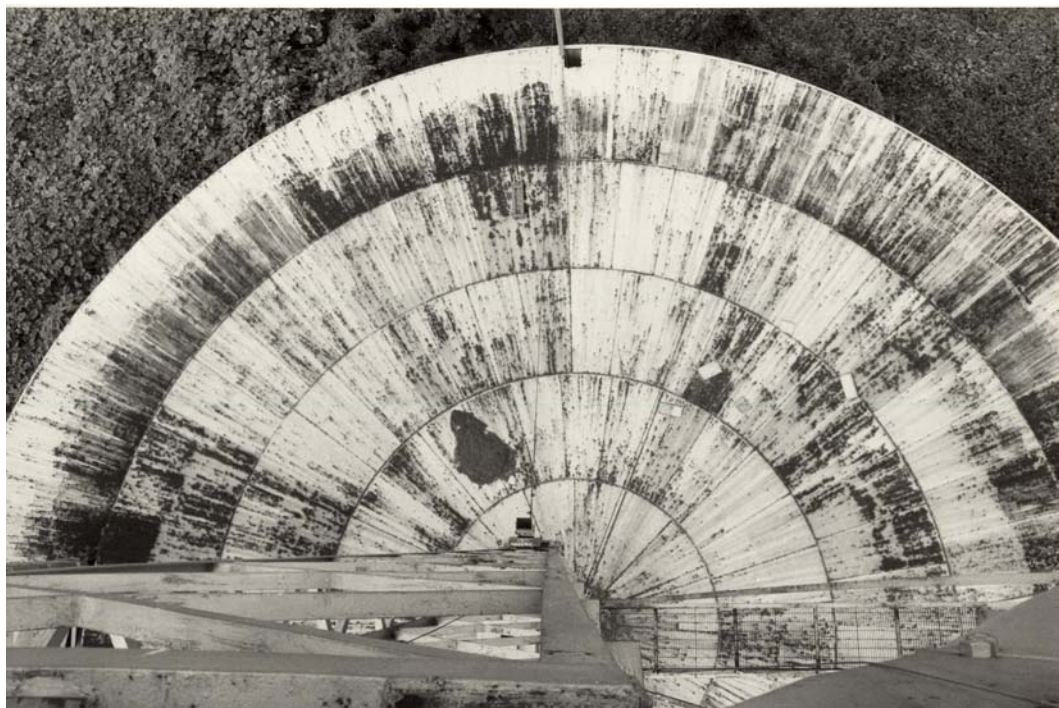


写真4 24m 固定式電波望遠鏡

太陽電波グループが野辺山に移動した後、1965年あたりから未開の宇宙電波開拓グループがミリ波電波望遠鏡の開発に乗り出し、1970年には三鷹に6mミリ波電波望遠鏡（写真5）が出現した。



写真5 1970年頃姿を現した6mミリ波宇宙電波望遠鏡と24m電波望遠鏡

今回は、三鷹に電波望遠鏡があった風景を紹介した。「兵どもが夢の跡」の写真であろう。6mミリ波望遠鏡は、その後、三鷹から水沢へ、水沢から野辺山へ、そして現在は鹿児島にあって現役で働いている。